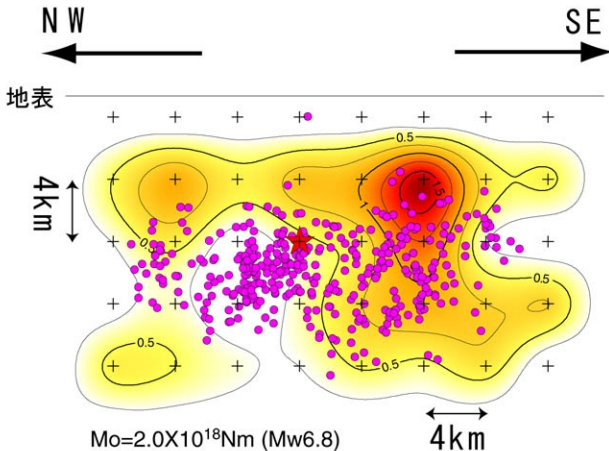


2005年3月20日福岡県西方沖地震 (M 7.0)

震源過程と余震分布 (本震発生後1日間)



破壊開始点：北緯33.739度
東経130.176度
深さ9.2km

メカニズム：防災科学技術研究所のF-netにより求められた解（走向306度、傾斜87度、すべり角17度）を仮定。

★：本震の位置

●：一元化震源による本震発生後1日間の余震分布

波形は防災科学技術研究所のK-NETおよびKiK-netのデータを使用させていただいた。加速度記録を1回積分して速度にし、周期20秒から2秒のフィルターをかけた。

波形計算は武尾(1985)により、インバージョンはmultiple time windowで時空間のすべり量分布の滑らかさのABICが最小になるように決めた (Ide et al. 1996)。

Vp (km/s)	Vs (km/s)	density (g/cm ³)	depth (km)	Qp	Qs	rigidity (GPa)
5.40	3.12	2.60	0.0	400.0	200.0	25
6.20	3.52	2.90	1.0	500.0	250.0	36
6.45	3.66	3.00	5.0	600.0	300.0	40
6.90	3.92	3.20	20.0	700.0	350.0	49
7.50	4.26	3.30	40.0	1000.0	500.0	60

